

「Workplace Gender Inequity Is Driven by Broader Societal Inequity: A Qualitative Study of Senior Japanese and American Radiation Oncologists.」の論文が *Advances in Radiation Oncology* に掲載されました。(800)995

順天堂大学放射線治療学講座 齋藤アンネ優子

フロリダ大学の Nancy Mendehall 先生が「若手のジェンダー平等は、かなり進んでいるが、主任教授レベルになると、酷い有様(terrible)」と、何かの折におっしゃっていた。どんな「terrible」を彼女が感じていたのか？

本研究は、日米のリーダーと呼ばれる女性放射線治療医のインタビューを質的に比較した研究である。インタビューは、秋田大の野村先生のご指導のもと、半構造的インタビューを行った。

米国のインタビューは、ASTRO 期間中にしかできないため、日本の原稿が先に揃い、**修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)<sup>1</sup>**で、帝京大の筒井先生の研究室とのコラボで解析し、社会医学会で奨励賞を頂き、論文化もした<sup>2</sup>。

インタビューの日米比較は、ミシガン大の Chapman 先生と共同で行い、論文化<sup>3</sup>した。

インタビューに答えてくださった先生と研究助成金などのサポートくださった JAWRO に心からの感謝の意を表したい。

以下に抄録の簡約を示す。

#### 目的:

日米の放射線腫瘍の上級女性医師のインタビューを通して、ジェンダー不平等のキャリア形成への影響を理解すること

#### 方法:

2012-2016 年、放射線腫瘍学を専門とする 14 人(日本 6 人、米国 8 人)の女性教授にインタビューを行った。

#### 結果:

5 つのテーマが特定され、以下の結果に至った。

- (1) 小児期のジェンダーの捉え方は、キャリア志望に影響を与える
- (2) 根強い性差別意識と女性特有のライフイベントによる職場の不利益は、キャリアに影響を与える
- (3) 家庭におけるジェンダー不平等は、キャリアに影響を与える
- (4) ジェンダーと無関連な要因が、キャリア満足度に影響を与える
- (5) ジェンダーの平等を達成することは、米国よりも日本で困難である

#### 結論:

生涯にわたり性差別がキャリア形成に大きく影響することがわかった。

## 文献

1. 木下康仁. 修正版グランデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)の分析方法. 富山大学看護学会誌. 20076(2): 1-10
2. 竹内真純, 筒井秀代, 石黒 彩, 茶谷有紀, 野村恭子, 冲永寛子, 長谷川和子, 齋藤アンネ優子. 質的研究による女性放射線腫瘍科医の自己実現プロセスと促進要因・抑制要因の解明. BulletinofSocialMedicine.2015 32(2): 117-24.
3. Chapman CH, Nomura K, Kothari A, Atluri<sup>1</sup> N, Saito AI. Workplace Gender Inequity Is Driven by Broader Societal Inequity: A Qualitative Study of Senior Japanese and American Radiation Oncologists. Adv Radiat Oncol. 2021 Dec 24;7(2):100879.